ブラジル支部通信

昭和八年五月九日

東亞天文協會ブラジル支部 神 屋 信 一

謹啓(省略)

○大窪君と勝浦君がスケツチを始めてから六月末で滿一ケ年になります.農事が多忙でありますため夕方やつと仕事を終へて家畜に飼料をやり夕食をすますと入浴もする暇なく觀測をはじめるのです.入浴は午後の十時より早いことはありません.それにこれからの寒さは零度以下にさへなるのですから農園からかへつたま→裸足でやる觀測はなみたいていではありませんよく一年間續いたさとと存じます.しかし兩君は黄道光や光帶や對日照がなにものであるかわかるまでは續けるといつて元氣にやつて居ります.御安心下さい.

○何れ來月末滿一ヶ年の總勘定を兩君ともやるはずでありますが**兎**も角光帶が一年中 あるものだといふことにはなりさらです.光帶といふものは地球をとりまいて永久に あるものだといふことになるのだとおもひます.さらして最初にも申上げました様に 光帶は黄道光とは別のものの様な感じが致します.

○黃道光は太陽の周圍にあらはれる現象で例へば太陽の周圍にレンズ形に集つた流星 園の現象と見ますならこの現象と,別な光帶といふもの現象が重なり合つたものが一般に觀測されて居る黃道光ではありますまいか。

- ○さらして黄道光の頂點の部分の南偏したり北偏する部分は光帶に屬するものではないでせらか.
- ○光帶のスケッチに南偏するものと北偏するものとありまして例ば,

八月十一日光帶第四號のスケツチは南偏 八月十九日黃道光第八十五號のスケッチは北偏} 臍浦君觀測

等でありまして尤昨年のスケッチは極めて下手なので正確には計れませんが星の位置 との関係ははつきりしてゐますから間違はなからうとおもひます・

○この南偏北偏の時の月の位置を見ますと南偏の時は月も南にあり北偏の時は月も北 にあるやらで月の位置によつてその偏度にも大少がある様であります。昨年のスケッチはわるい爲めと今年のは年鑑がありませんため關係をよく見ることが出來ませんが 御送りしました報告によつて特に御注意願ひ度存じます。以上

會報

○ 六月例會── 去る六月十八日午後三時,花山天文臺にて例會講演會を開催,當日柴田理學士の「星の構造」につき約二時間に渉つて講演あり,相當興味深い問題であったので熱心な聽講者を滿足せしめた

編 輯 後記——猛熱酷暑、レコード破りの今年の暑さにはもう形容の辭が出ぬ,望遠鏡のレンズが熔けそうだ。然し流石海拔 220米の花山天文臺は凉しい日影斜めにさす頃の冷凉さは下界では味へない樂天地。訪ぬる者は蓋し経讃の言葉も忘れるであらう。——本月號は各方面の熱心な執筆者の方々の御盡力により珍しく堅實な內容を盛る事が出來た。言ふまでもなく「流星課の紹介、觀測,研究」の特輯號である。小模孝工郎氏は觀測部流星課長として多年觀測者の指導統制に研鑽の勞をとられてゐる本別流星界の開拓者であり,觀測界の重鎭である。

同氏の二題目の記事中前者は流星課を測史として貴重なものであり,後者は流星觀測家にとつての有益なる無二の必携書である。 又下保茂氏の論文は流星に関する最近の問題として,廣く讀者の多大の興味を惹くであらら、兩者何れも特輯號として大光彩を添へられた事に對し多忙中兩氏に深謝の意を表する次第,又一方柴田淑次氏の記文事により彗星界の判狀を途一報導されてゐる。 — 若き會員並びに觀測者等よ、形の學の興味は實地觀測により生ずる事を了解されよ、げに星の光の輝きこそ優柔不斷の魅力を放つものである事を・——

新しく」**思索と方便**"欄が設けられた。研究と創造への自由な開放である。 廣く讀者 の投稿を歡迎する (一編輯子)